

堺市コミュニティーソーシャルワーカー設置業務

平成 27 年度 地域福祉ねっとワーカー（CSW）の取り組みについて

1. 概要・事業目的等

本事業は平成20～21年度に配置検証、平成22年度から本格実施し、平成24年度の地域包括支援センターの再編を経て、現在は社協各区事務所に1名ずつCSWを設置。関係機関・地域と連携し、個別支援、地域支援、ネットワーク支援の断続的な活動を行うことにより、堺市における地域福祉の向上を目的とする。

2. 平成 27 年度の事業進捗状況

1) 体制

- ・人員：社協各区事務所に1名（計7名）
- ・推進体制：社協地域福祉課、堺市高齢施策推進課

2) 活動状況

①個別支援の状況（※4月～12月に実践し、社協CSW連絡会にて共有されたもの）

	堺区	中区	東区	西区	南区	北区	美原区	合計
新規件数	65	40	65	39	46	56	40	351
継続件数	47	54	76	42	34	124	59	436
合計	112	94	141	81	80	180	99	787

特徴的な事例（H27年度新規ケース）

堺区：「ごみ屋敷で暮らす不登校児童含む6人世帯への支援」

中区：「姉と同居している40代男性への父親死去後の生活面・就労面での支援」

東区：「就労経験のない50代後半単身男性への母親死去後の生活面・経済面への支援」

西区：「身障2級の62歳男性への離婚後の生活保護申請に向けた住居設定支援」

南区：「引越しが必要だがごみ屋敷状態の府営住宅で暮らす統合失調症の本人への支援」

北区：「統合失調症・認知症の可能性があるごみ屋敷世帯への支援」

美原区：「車中生活で病気療養のため定期受診が必要な60代独居男性への支援」

⇒ 生活困窮問題を抱える人・世帯の事例や社会的孤立に起因する事例が多い。

地域支援者からの相談により支援が開始する事例が多い。

②地域支援・ネットワーク支援の状況

主な活動例：

堺区：「小地域での活動おこしへの働きかけ、テーマ型NPOと地縁組織の繋ぎ」

「地域包括支援センターとの協働による地域ケア会議を見据えた圏域レベルでの校区福祉委員会実践研修会の開催」

- 中区 :「障害者作業所ネットワークとの連携によるイベント開催や校区福祉委員会への周知啓発」
 東区 :「関係機関との協働による、地域ケア会議を見据えた区レベルでの地域活動の担い手交流会の開催」
 西区 :「地域の見守り力の向上、見守り手の増加への働きかけの場づくりの支援」
 南区 :「三原台府営住宅の建替にとまなう、地域への支援と専門職同士でのネットワーク構築」
 「竹城台東校区における地域課題解決に向けた支援者同士での話し合いへの参画」
 北区 :「地域包括支援センターとの協働による北区つながりサポーター事業の展開」
 美原区:「地域の見守り力の向上をめざす場づくり、見守り意識向上に向けた出前講座の開催」
 ⇒ 各区独自の地域特性・地域課題に対する地域支援・ネットワーク支援が活発化している。

③プロジェクト（事業化・施策化）の状況

- i) 『ご存知ですか、地域福祉ねっとワーカー』 冊子・リーフレットの発行・周知
 ⇒ 発行部数 冊子：1,500部、リーフレット：7,000部
- ii) 『みんなを まもる もしものときの見守りガイド』の配付・周知
- iii) 『安心連絡グッズ（シート・カード）』の配付
- iv) セルフネグレクト・孤立死事例の蓄積
- v) 公営住宅等の建て替えについての情報交換
- vi) その他

3. 今年度の成果と次年度への課題

- ・地域関係者や各関係機関からCSW実践への理解がすすみ、連携事例が増えるにつれ、個別ケースだけでなく、地域支援やネットワーク支援においても協働が進んでいる。
 ⇒ CSWの周知ツール等を活用し、既存ネットワークの強化や新たなネットワークの開発
 ⇒ 特徴的な区域レベルでの取り組みを必要に応じて全市の取り組みへ普及する仕組みづくり
- ・CSWだけでなく、個別支援を展開する社協内各部署が連携してチームとして支援を行うケースが多くなり、それぞれの役割のもと支援展開が図られるようになった。
 ⇒ 社協内各部署を横断した事例検討の場づくり、社会資源開発の仕組みづくり
- ・地域と協働した支援の実践や区域単位での課題集約・資源開発に向けて、「地域を基盤としたソーシャルワーク視点」を堺市で定着させ、区域内で先導的に取り組むリーダーを増やすことを目的に専門職向けの研修を開催(別紙3参照)。
 ⇒ 研修内容の検証・評価と、地域住民向け、専門職向け、地域住民と専門職の協働をめざす研修等、対象別研修の検討